

分野（1）

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び  
事業内容の改善方法に関する調査研究

⑤ぜん息患者の自立を支援する長期管理に関する調査研究

研究課題名：ぜん息患者の自立を支援する長期管理に関する調査研究

調査研究代表者氏名：大矢幸弘

評価コメント

- 行動科学的アプローチの見地から、テーラー化教育プログラムの精緻化を図りつつあることを評価する。
- 治療効果を高めるためのアドヒアランスの向上には生活習慣の変容を効率的に行う行動療法の手法が期待できる。すでにこれまでの研究で患者の自己効力感や家族との関係や養育者の認識が利用行動のアドヒアランスに影響を与えることを明らかにしており、本年度は個別化した患者指導方法として、介入すべきポイントをコンピューターにプログラミング化し、行動科学的な視点からテーラー化した指導をシステムティックに行うツールが開発されているので、その効果が期待される。本機構の行事に応用できる集団的指導のツールの作成も期待する。
- アンケート調査票の作成は評価する。
- 前回の研究の延長と思われる色彩が強く、あまり斬新的な調査研究とは思えない。
- エビデンス水準の高い、行動科学的アプローチを用いたテーラーメイド的な自己管理マニュアルを作成することは、非常に有意義なことと思われるが、指導内容はこれまでに主に用いられてきた指標を中心に行われているのは残念である。今後は、他のグループが行っている、新たな客観的指標（呼気NO濃度、濃縮液指標等）も考慮して、共同研究を行っていくことが望ましい。
- 喘息患者の管理に個々の症例に応じたテーラー化された教育プログラムを作成するという発想は良いが、個別対応使用群と非使用群の間に有意差がないとすれば、その対応プランが不完全であることを示唆しているので、プランの改善に努める必要がある。
- 個別プランを作成して、その効果をどのようにして評価したのか、分かり難い。もう少し分かり易くデータを解説してもらいたい。